

本日、高野市長に「水道水源井戸の有機フッ素化合物汚染の原因究明と汚染除去を求める要請」を手渡しました。

昨年9月10日、東京都水道局は、PFOS、PFOAの濃度がアメリカの目標値(70ナノグラム/ℓ)を超えた国分寺市と府中市にある浄水所の水源井戸について、取水を一時停止していると発表しました。都は以前より多摩地区でこれらの物質の濃度を調査しており、2011(平成23)～2019(令和元)年度の調査結果では、府中武蔵台浄水所で最大値が80～150ナノグラム/ℓになっています。

■浄水所出口の水質検査結果

■府中武蔵台浄水所

単位: ng/L

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
PFOS+PFOA	110	110	150	120	150	140	110	80	(井戸停止前)60 (井戸停止後)26

* 複数回検査を実施している年度については、最大値を掲載しています。

(<http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/topic/20191115-03.html>) より

有機フッ素化合物であるPFOS、PFOAは環境中で分解されにくい物質で、生物中に蓄積され人体への影響が懸念されています。POPs条約(残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約)や化審法で規制されており、国連の残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約締約国会議は昨年、世界規模の環境・人体汚染物質としてPFOS、PFOAの製造・使用禁止を決議しています。

このような人体に影響を与える物質が、武蔵台浄水所において長年にわたり検出されてきたことは看過できません。さらにこのたび、米軍横田基地周辺の井戸から高濃度で検出されたとの報道もありました。米軍基地からはこれまでもさまざまな有害物質の漏出が起きていますが、情報が開示されず原因究明に至っていません。2018年12月に報道された横田基地の泡消火剤によるPFOS汚染についても、米軍からは情報開示されていません。

府中市民が飲用している水道水には地下水が使用されています。東京都水道局が事業を実施しているとはいえ、市内の井戸から有害物質が確認されたことは、市民に重大な不安を与えました。

市民の健康や安全を守るべき立場として、以下のことを、都に対して要請することを求めました。

- ・地下水は揚水しないと水脈を伝って汚染が広がるとされています。PFOAとPFOSは活性炭で除去できるため、汚染の拡散防止のため揚水し続け、自前の水源を活用していくことを要請すること。
- ・PFOSとPFOAが検出される原因について、多摩地域の自治体と連携して、汚染の原因の究明と、情報の開示を要請すること。